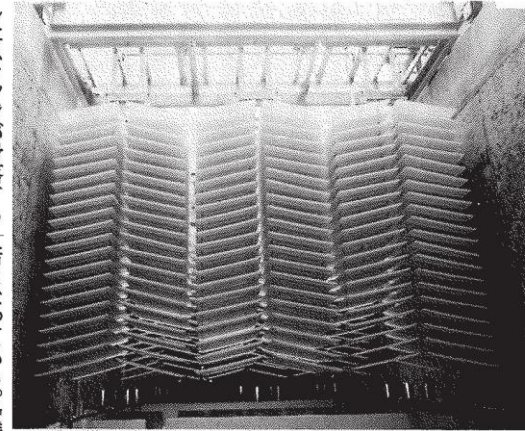


# 宜野座村で初導入

新菱工業 傾斜板沈降装置

## 両翼可動で高機能化



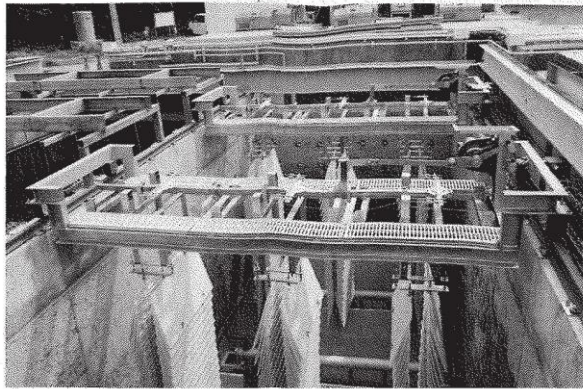
両翼を展開した状態

倍となっている。翼板は1枚1枚をワイヤーで吊り下げた柔構造のため、従来のものより耐震性に優れている。1日に数回自動運転で可動すること

や、破損した場合には部分的な修理交換が現地で可能となっている点も特徴として挙げられる。維持管理に関しては、レール上で装置全体の移動が可能のため、沈降池の清掃作業などが容易となっている。なお、翼板は耐久性に優れたポリプロピレン製で、ユニット部には腐食に強いステンレスを採用している。沈降池の能力と寸法に合わせて装置のユニット数と翼板の段数を自由に設計できるため、最適な設置が可能。同社は全国的な傾斜板の更新需要に応えていく方針としている。

沖縄県宜野座村は、福山浄水場に新菱工業の販売する「両翼可動式傾斜板沈降装置」（開発＝水道施設整備技術協議会・田村善胤氏）を導入した。同装置の導入は全国初。この装置は、従来の固定式傾斜板とは違った多階層の翼板（傾斜板）が可動する構造となっており、水平状態で効率的にスラッジ（沈殿物）が堆積し、翼板を可動させ傾斜状態にすることで堆積

したスラッジが滑落する構造となっている。また、傾斜角度が従来の固定式傾斜板の60度に対して約75度まで傾斜するため、スラッジが滑落障害を起こすことなくスムーズに滑落ができる。この可動により傾斜板にスラッジが詰まることがないため、洗浄装置などの設備の追加は不要となる。また、翼板を水平にできるため、表面負荷率は従来の固定式傾斜板の2



ワイヤーで吊り下げられた翼板

## 維持管理も容易に